2022年（令和4年）
4月号
赤目まちづくり委員会・市民センター

赤目まちづくり通信

発行／赤目まちづくり委員会（赤目市民センター）　〒518-0465名張市赤目町丈六238-1　E-mail：akame-ko@emachi-nabari.jp　TEL＆FAX：63－0329

取り返すことの出来ない思い出と早く戻れよ日常生活

赤目まちづくり委員会　会長　亀本和丈

桜花爛漫のこの季節、年中で最高の時期を迎える今日この頃、地域の皆様には何かとご協力を賜っております事、改めてお礼申し上げます。

国内に於けるコロナウィルス感染状況も今だ完全な終息の見通しが付かず、不安と心配な毎日をお過ごしの事と思います。なおこれに追い打ちをかけるが如くロシアがウクライナに対して軍事侵攻の勃発、また北朝鮮が何回となくミサイルを発射する等、世界の状況は日毎に変化を続けており私達も毎日が危機感を持っての生活の繰り返しであります。

本来ならば卒業式を始めとして、入学式や新社会人としての入社式等は、ほとんどが規模縮小で、人生で二度とない思い出を作る事すら出来ない事は一番心の痛む処であります。近々の3ケ年間については、修学旅行や運動会の中止など、加えて各地区に於いては主たる行事がほとんど中止せざるを得ない状態が続き、特にお祭り事につきましても古里・赤目の古き良き伝統文化の継承は難しく今後の先行きが懸念される処であります。

これからは一日も早い新型コロナの終息と日常生活への戻り、また合わせまして地域の皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

子育てコーナー
赤目忍たま広場

忍たま広場は、生後間もなくから幼稚園・保育所に入園するまでの小さなお子様とその保護者が集う、楽しい子育て広場です。

日 時／毎月第4水曜日 午前 10 時～ 11 時 30 分

場 所／赤目市民センター 研修室

カーペット敷きの安全なお部屋で、ハイハイよちよちのお子様たちでも素足で安心して遊べます。
地域のボランティアさんや「子ども支援センター・かがやき」のやさしい保育士さんが、温かく迎えてくれます。

2022 年度予定

4 月 27 日	親子ふれあい遊び
5 月 25 日	親子ふれあい遊び・親子でゲーム
6 月 22 日	親子ふれあい遊び・七夕飾り製作
7 月 27 日	親子ふれあい遊び・インボディ測定
8 月 24 日	親子ふれあい遊び・親子でゲーム
9 月 28 日	親子ふれあい遊び・危険防止の話
10 月 26 日	親子ふれあい遊び
11 月 16 日	親子ふれあい遊び・松ぼっくりで作ろう
12 月 21 日	親子ふれあい遊び・サンタ登場お楽しみ会
1 月 25 日	親子ふれあい遊び・インボディ測定
2 月 22 日	親子ふれあい遊び・おひな様づくり
3 月 22 日	親子ふれあい遊び

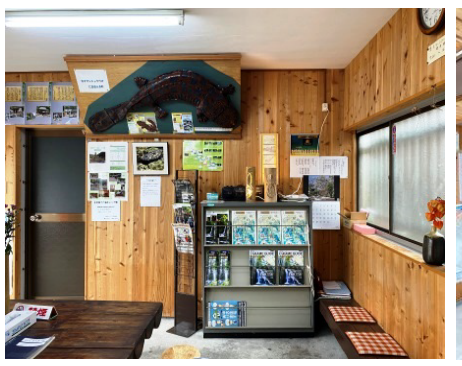
お問い合せ（赤目市民センター）☎ 63-0329

「知事と県民の円卓対話」実施

赤目市民センターで 4 月 11 日（ 月 ）16 時より「知事と県民の円卓対話」を実施予定。一見知事・亀井市長を交えて、地元でキャンプ場の運営などを手掛ける赤目まちづくり委員会の若手メンバー等と地域活性化の取り組みなどを巡って対話する。

いよいよ春本番、「旅ステ」開所！！

３月２６日（ 土 ）より「旅のステーション」がオープンしました。赤目四十八滝で 27 日（ 日 ）、春の観光シーズン到来を告げる「滝まいり」に合わせての開所。朝９時から 16 時までに、５０名余りの方が立ち寄られました。駅前の桜も五分咲きで、いよいよ春到来。今、新規スタッフ「散策サポーター」を募集しています。集ってご参加ください。



憩いのサロン 「ほしかわ」 3/20（ 日 ） 開催

星川集会所で高齢者や子育て世代を対象に、第 2 回憩いのサロン「ほしかわ」が開かれました。子供たちに伝承遊びを教えたり、また折り紙をしたり、会話を楽しんだりと地域コミュニティの場として有意義な時間を過ごしました。毎月第三日曜日の午前 9 時半より開催予定。

「みんなのゆめひろば」利用案内

1. 門扉は常時開いていますので、他の利用者に配慮してご利用ください。2. 車の駐車は、入口の左右にお願いします。中央部への乗り入れは禁止です。3. 広場には、トイレはありません。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋（ 無料交付 ）

特大 45 リットル 10 枚 480 円・大 30 リットル 10 枚 300 円・中 20 リットル 10 枚 180 円・小 10 リットル 10 枚 80 円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり 30 枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ

赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左の QR コードを読み取って下さい。

2022年度　サークル参加者
募集中！！

2022年度　赤目市民センター登録サークル　活動日時			
No.	種　別	名　　称	活　動　日　時
1	健康体操	健康体操ポップコーン	毎週(金)　13:30～14:30
2		真向法体操	第1･3(火)　9:30～11:30
3		自彊術あかめ	毎週(火)　10:00～12:00
4		健康づくりマシュマロクラブ	毎週(木)　10:00～11:15
5	茶　道	赤目茶道高年者グループ	第4(月)　13:00～16:00
6	囲　碁	赤目囲碁･将棋クラブ	第2･4(日)　13:00～16:00
7	詩　吟	赤目詩吟教室	第1･3(木)　19:00～21:00
8	民　謡	赤目民謡クラブ	第2･4(金)　14:00～16:00
9	俳　句	赤目句会	第3(木)　13:00～16:00
10	楽　器	大正琴　音夢(ねむ)の会	第1･3(金)　14:00～16:00
11		大正琴　白百合会	第1･3(金)　9:30～11:30
12		竹朋会	第2･4(火)　19:30～21:30 (7～11月のみ)
13	コーラス	さくらどろっぷ	第2･4(木)　19:00～21:00
14	卓　球	あけぼの	毎週(月･木･土)　10:00～12:00
15		健康卓球	毎週(火･金)　10:00～11:00
16		白颯	毎週(火)　13:30～15:30
17		中井卓球	毎週(月･水･木)13:30～15:30(不定期)
18		フリーピンポン	毎月第2･4(水)　9:30～11:30
19		赤目卓球クラブ	毎月第1･3(水)　9:30～11:30
20	気功	気功サークル	毎月第1･3(金)　9:30～11:30(不定期)

★サークルへの入会申込み･サークル登録･体験参加は、赤目市民センターまで(☎63-0329)

4月4日～5月1日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
4/4	5	6 小学校入学式・始業式	7	8	9 戦没者追悼式	10
11 知事・市長赤目区民対談	12	13 ふれあいサロン	14	15 狂犬病注射	16	17 市長・市議選挙
18	19	20	21 サンサンカレー	22	23 新理事候補者会議＊	24
25	26	27 ふれあいサロン 忍たま広場	28	29	30 赤目まちづくり総会予定＊	5/1

＊実施場所は、いずれも錦生赤目小学校体育館

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温･マスク着用･消毒･換気、名簿の作成など、３密（密集・密接・密閉）を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合が有りますので、ご注意お願い致します。

５月の行事予定

★5/11(水) ふれあいサロン
★5/15(日) 竜神山トレッキング
（詳細は、チラシをご覧ください。）
★5/25(水) ふれあいサロン・忍たま広場

印刷・コピー機　★新設★

－ 料　金 －　　1枚からOKです

白黒・片面（A4・B4共）1枚　2円、A3　4円

カラー　A4　10円　B4　15円　A3　20円

（用紙持ち込み　1枚に付き1円引き）

Vol.27　新・歴史散策紀行…**「伊賀・赤目文化遺産」**（各区・地域の名所・名品を募集しています。）

「伊賀が生んだ文豪・横光利一」

誰にも生まれた故郷がある。幼少期･小年期を過ごした環境が、後々に大きな滋養と成って影響を及ぼすことが大きい。また心の拠り所とするのも､育った原風景なのかも知れない。それらは｢郷愁を呼ぶ風景｣であり、懐かしさの感情と愛着を感じることが多い。そこで伊賀（名張）に愛着を感じた人たちを紹介。

横光利一（よこみつ りいち、1898年〈明治31年〉3月17日 - 1947年〈昭和22年〉12月30日48歳没、本名・としかず）は、明治31年（1898年）に、福島県会津若松市で父・梅次郎と母・こぎくの長男として生まれた。母は、松尾芭蕉の家系をひくといわれる。明治37年（1904年）6月、父が軍事鉄道敷設工事のため朝鮮へ渡り、母の故郷である三重県阿山郡東柘植村（現・伊賀市野村）に戻り、小学校1年から4年までの多感な少年時代の大半を過ごした。伊賀市野村の母の実家・向かいの梅田竹次郎さん屋敷2階に住んでいた。

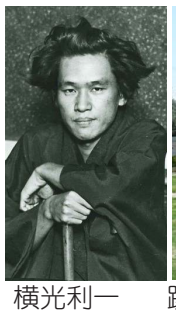
短編「笑はれた子」に書いた跳ね釣瓶（つるべ）は、「この家の井戸の物だろう」と推測されることから「横光利一の心のふるさと公園・跳ね釣瓶（つるべ）の庭」と名付けられた。跳ね釣瓶は支柱に上下に動く横木を渡し、井戸側に釣瓶を、反対側に重しを付けて、この原理で力仕事が軽減されるという仕組み。

親友故・澤井善一氏に宛てた手紙で、「やはり故郷と云えば柘植より頭に浮かんで来ません」と柘植への慕情を記している。利一が小学校5年生以降柘植に帰らなかったことについて「好きなればこそ帰れないという苦しさ、これは文人ならでは分からぬことです」と俳聖松尾芭蕉の心情や柘植への郷愁を記している。

明治42年（1909年）に滋賀県へ移りますが、明治44年（1911年）13歳で三重県第三中学校（現・三重県立上野高等学校）へ入学。一家揃って上野町万町に移り住んだ。庭に大きな柿の木があり、試験になると「此処で勉強するとよく出来る」と言ってその木に登り、本ばかり読んでいた。後、大正12年小説家として文壇にデビュー、川端康成と共に新感覚派運動を展開。志賀直哉とともに「小説の神様」とも称された。

柘植と云えばもうひとり、日本で最も有名な俳聖・松尾芭蕉。1644年（正保元年）に伊賀で誕生し､伊賀市上野赤坂町とも伊賀市柘植（つげ)町とも云われる。生誕地の上柘植村(現･伊賀市柘植町)とする説は、松尾家は芭蕉生誕と前後して伊賀上野城下の赤坂へと転居しているので、上柘植村で生誕の可能性もある。

ちなみに多くの文人が愛した伊賀の地は、盆地で山に囲われ自然が豊富で、しかも温厚で・人の好い人たちの集まりの場といっても良いだろう。その中でも彼（芭蕉）が常に忘れなかったこと、それは、「故郷と、人を思う」ことだ。


横光利一

跳ね釣瓶の井戸

横光利一と柘植

「跳ね釣瓶の庭」公園

県立上野高等高校

上柘植芭蕉生誕の碑